



——うつくしい海を壊す 止めよう 辺野古への新基地建設



沖縄県名護市辺野古に計画されている新基地。普天間飛行場の“代替”と言いながら、実際は、軍港などをもつ耐用年数200年もの恒久基地です。美しい海を、鉄とコンクリートの基地が覆うのです。住民の頭上を米軍輸送機や危険なオスプレイが飛び回ることに。埋立でサンゴ礁や藻場が失われます。ジュゴンやウミガメなどは棲めなくなります。西日本各地から搬入予定の土砂で沖縄の生態系が壊されます。国際自然保護連合やラムサール条約事務局も、重大な環境破壊を警告しています。

危険な普天間飛行場はすぐに閉鎖・返還を

海兵隊の普天間飛行場は、人口約10万人の宜野湾市の真ん中です。住民は市内の往来さえ不便を強いられています。地域経済の発展を妨げています。頭上を輸送機やヘリ、オスプレイが飛び交い、日常的に爆音と事故の危険にさらされています。2004年には沖縄国際大学にヘリが墜落炎上。米軍は消防や警察の調査も拒否。米国防長官も「世界一危険な基地」と公言。もともと沖縄の基地は米軍が力で奪ったものです。日米両政府の「返還は辺野古新基地と引換え」は居直りです。



——やんばるの森を壊す オスプレイ・パッドはいらない

沖縄本島北部の「やんばるの森」。絶滅危惧種の天然記念物、ノグチゲラやヤンバルクイナの生息地。そこに政府はオスプレイ・パッド(発着場)6基の建設を強行。オスプレイは墜落事故が多く、ものすごい騒音と熱風で住民や動植物を襲います。希少生物保護の日米合意にも反しています。地元高江の住民はじめ沖縄各地、全国からも多くの人びとが、現地にかけつけ、連日の阻止行動が続いています。政府は「本土」から500人もの機動隊を送り、力で排除。自衛隊ヘリも投入し、工事を強行しています。

海兵隊は撤退を

日本全土の0.6%の沖縄。在日米軍専用施設が74%も集中しています。海兵隊は「日本のための抑止力」とされていますが、大半は海外での巡回や戦闘が任務です。沖縄での海兵隊など米軍人・軍属などの犯罪は、72年の復帰後44年間で5910件。うち凶悪犯罪は575件も。2016年4月にも20歳の女性が元海兵隊員に殺害されました。

「海兵隊撤退を」



追悼・抗議県民大会に数万人

悲しみと怒り 限界超

不平等な地位協定の抜本改定を

「日米地位協定」をご存知ですか？
在日米軍要員には日本の法令は適用されません。公務中なら犯罪を犯しても、裁判権は米側にあります。また「公務外」でも、米兵が基地に逃げ込めば、日本の警察は手出しができません。地位協定には、環境保護や立入調査権の規定がありません。米軍の燃料や有害物質で水・土壌・大気の汚染も深刻です。2015年に「環境補足協定」が結ばれましたが、実効性には疑問があります。

